

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣工業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月13日(火) 14:10~16:00
- 3 開催場所 協議会会場 大垣工業高等学校 本館1階 会議室
課題研究発表会参観 体育館2階 アリーナ
- 4 参加者
- | | | |
|-----|--------|--------------------------------------|
| 会長 | 小塚 生開 | 共立紡機株式会社 代表取締役 |
| 副会長 | 今津 秀夫 | 育友会会長 |
| 委員 | 長瀬 ちえ子 | 大垣夢ある女性の会 事務部長 |
| | 片桐 実智 | 地域代表 |
| | 松崎 美枝子 | 育友会2年学年代表 |
| | 中野 たみ子 | NPOひまわりの花 理事長 |
| | 浅野 康博 | イビデン株式会社執行役員 経営企画本部人事部長
(欠席) |
| | 竹中 拓也 | 太平洋工業株式会社
コーポレート企画センター人事部 主査 (欠席) |
| | 吉田 秀慈 | 大垣市立西中学校 校長 (欠席) |
| 学校側 | | |
| | 桐山 明宏 | 校長 |
| | 土田 公成 | 副校長 |
| | 樋口 高広 | 教頭 |
| | 安部 博貴 | 教頭 |
| | 田中 正一 | 工業部長 |

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和5年度課題研究発表会および工業部の取組みについて

下記テーマの発表を参観

- ・情報技術工学科 検定対策Webアプリケーションの制作
- ・機械工学科 テクノコラボ
- ・電子機械工学科 ペットボトルリサイクル研究
- ・土木・建築工学科 橋梁模型コンテスト(はし・コン)
- ・化学技術工学科 香りの抽出と芳香剤の製作
- ・電気工学科 自転車置場照明設備の改修工事
- ・電子工学科 ぎふハイスクール・サット(GHS)プロジェクト

全日制工業部の自己評価について配布資料を説明。

意見1:素晴らしい発表会であった。普段の勉強(実習)の成果が分かった。社会で働いていく基本を学んでいると感じた。発表者も堂々としており感心した。

- 意見 2 : 実践形式の学びであり社会に出た時の能力を養っていると感じた。外部連携などでコミュニケーションが高まることは非常に良いこと。自分の子どもも 3 年間で成長できた。
- 意見 3 : 生徒が探究活動の中で失敗の中から学んでいることが素晴らしい。私たち素人にも分かるように発表していた。発表者の中には小さい時に関わった生徒もいて成長した姿に感動した。
- 意見 4 : 問題を解決していく能力が会社でも必要とされており、学校で取組んでいることは素晴らしい。橋梁模型コンテストの女子生徒も規定のクリアにむけて探究していた。娘がお世話になった時に見た課題研究発表会よりもレベルが上がっている。
- 意見 5 : 生徒が課題を見つけている点が素晴らしい。今後の課題、解決できなかったことを、是非、後輩たちに乗り越えてもらいレベルを高めていって欲しい。
- 意見 6 : GHS の発表は、一人で行っていたが内容がよく分かった。他校連携や専門家とのつながりの中でコミュニケーション力が高められたのだと思う。専門性の高い研究をそれぞれが取組んでおり、こうした研究・発表に取組んだ生徒たちの将来が楽しみ。
- ⇒課題研究の発表は、すべての 3 年生が各学科で発表を行っている。その中で、次年度もテーマを継続してもらい課題をクリアして欲しいという思いを後輩に伝えている。単年度での研究だけでなく、複数年かけて課題解決にむける取組みも進めている。
- ⇒他校や大学との連携、コミュニケーションをとるスキルの向上にむけて、生徒にいろいろな体験をさせているが、より良い成果を出せるように指導を継続していく。

(2) 全日制の現状と課題について

全日制全体の自己評価について配布資料を説明。

- 意見 7 : 小中学校のいじめ事案では、感覚過敏の生徒が被害を訴えているケースが多い。まずは「そういうふうに分かったんだね」と傾聴してやるのが大事。また、自己表現できない生徒については、YES か NO で答えられる問、または選択肢を用意してコミュニケーションを取ることに心がけて欲しい。
- 意見 8 : 入社して悩み自死を選択するという悲しい話を聞くことがある。「命の大切さ」について、3 年間に一度は講演会などで話を聞く機会を設けて欲しい。担任が生徒に語りかけることも大切だと思う。
- 意見 9 : 進路指導について、就職率 100% も大切だと思うが、親の立場からするとミスマッチによって離職しないような指導にも力を入れて欲しい。(周囲で会社を辞めた話を聞くことがある)
- 意見 10 : 教務、生徒指導、進路のいずれも、多様な生徒に対応するために仕事が増えている気がする。思い切って止める業務を考えることや、進路の次年度目標にある DX 化で仕事のスリム化を考えるといったことが必要になってくると思う。

(3) 定時制の現状と課題について

定時制の自己評価について配布資料を説明。

- 意見 11 : 副校長先生の話にあったように、多様な生徒たちに対して、できる限り生徒に寄り添って指導をして欲しい。
- 意見 12 : 副校長先生の話の何うと、毎回大変であることはよくわかる。一方で、定時制の様子のイメージが湧かないので、有効な意見を申し上げられないのも事実。一度、授業の様子を見させていただける機会を作っていただけるとありがたい。

(4) 令和 6 年の学校運営協議会の委員選定について

6 会議のまとめ

- 次年度にむけての重点項目、具体的実践内容については、自己評価の記載内容で進める。
- 命の大切さに関しての意見は、今一度、生徒指導に伝えるとともに、講演会やホームルーム活動など方法を検討して取り組む。
- 感覚過敏の生徒の事案がこれまでもあった。傾聴することや手をかけることが重要であること、そして個々に合わせた指導方法を選択していくことの重要性について、全職員に伝えて円滑な指導につなげる。
- 離職率調査については一部で実施しているが、表に情報が開示されてこない情報もあるため事実の把握が難しい。頑張らせることの重要性と、無理を避けることの重要性のバランスを考える必要がある。全体指導と個別指導の多面的な指導を行いたい。
- 進路指導に関する DX 化の取組みについては、まずは求人情報の検索などが便利になる仕組みのシステム作りを具体的に検討しているため、この内容について推進する。
- 来年度は、スクールミッションについて検討いただくことになるので、それぞれの立場からの意見をいただき検討を進めたい。
- 次年度には学校運営協議会の委員の皆さんに定時制の様子を見学できる機会を設定できるよう検討する。